

～震災後の地域づくりと町内会の役割～

平成26年度地域政策研究センター(教員提案型・後期)

課題名 : 震災後の釜石市における町内会の変容と課題
研究代表者 : 総合政策学部 教授 吉野英岐
研究メンバー : 大久保孝信、松井英士、栗澤沙織、見世健一、佐々木智輝 (釜石市役所地域づくり推進課)
キーワード : 町内会、共有財産、郷土芸能

▼研究の概要 (背景・目標)

1. 震災から年が経過自立再建と災害公営住宅の建設＝人口移動が進みつつある
2. 釜石市の町内会は震災にどう向き合き、復興過程でどのような活動をしてきたかを明らかにする
3. 釜石市の復興を左右するコミュニティの今後のありかたについて考察する

釜石市の地図



災害公営住宅

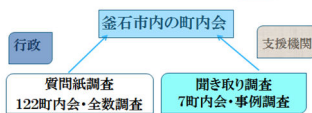


高台移転地



▼研究の内容 (方法・経過)

釜石市内の町内会調査

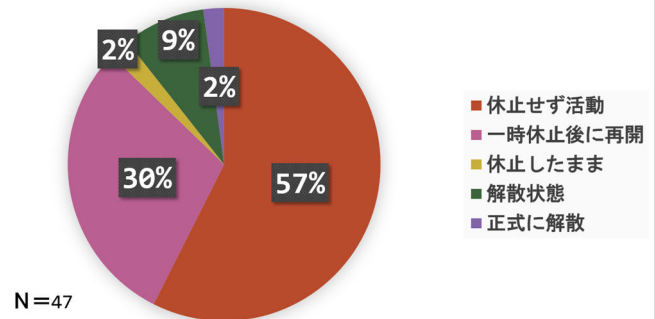


- ・アンケート配布122票
⇒回収109票、回収率89.3%
- ・聞き取り調査 7町内会

▼研究の成果 (結論・考察)

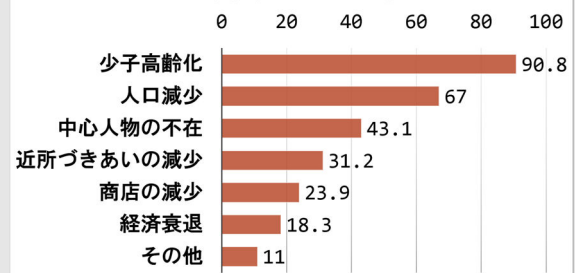
1. 町内会の主な業務は清掃、祭礼、震災後は復興計画づくり、被災者との交流活動も。
2. 共有財産の所有割合は15%。内容は山林、集会所、墓地、宅地。外灯など。
3. 町内会は資産管理団体の側面もあり、共有財産は地域活動の基盤でもある。
4. 被災によって一方的に意欲や活動が止まったわけではなく、地域の特性が左右する。
5. 地域祭礼は復興のエネルギーとなっている。

被災後の町内会の活動



被災後の町内会の活動

地域社会での心配事



今後心配なこと(複数回答)

▼おわりに (まとめ・今後の展開)

1. 今後、少子高齢化、人口減少が懸念されており、この課題を解決していくことが強く望まれている。
2. 半島部(漁村部)では町内会が中心となって、祭礼や伝統芸能を核に地域づくりを進めることを提案する。
3. 市街地(中心部)では町内会とともに外部の人材などからなる新しい地域づくり団体と連携しながら、地域を共同で運営する仕組み作りも必要である。地域の魅力や特性を見つけ出し、新住民や若い世代の力を大胆に取り入れながら地域づくりを進めることを提言する。